

《地方行政を読む - 川越市》

## 川越市新火葬場建設計画

自民無所属クラブ代表・吉敷市議が明言

「私たちは火葬場建設推進の立場から下ります」

(2012年8月3日)

本紙はさる7月24日午後4時、川越市庁舎6階の議員控室を訪れ、自民無所属クラブ代表の吉敷賢市議と会見。関口勇・加藤昇・三浦邦彦市議らも同席するなか、川越市が現在進めている、小仙波地域の「新火葬場建設計画」について意見交換した。

本紙は7月号特集記事に掲載した、地権者Nさんの「真の反対理由」、すなわちNさんのお子さんが重度の自閉症で苦しんでおられること、そのためNさん夫妻が自費による障害児サポート施設を建設する計画であることを伝え、吉敷市議の意見を問うたところ、同市議は、

「私の火葬場推進の理由とは、従来の火葬場が満杯であり、施設も老朽化しているため新斎場建設が焦眉の急であることから、新設火葬場建設に関して推進の立場をとったもの」

と前置きしつつ、Nさん夫妻の反対理由をめぐり、次のように述べた。

「しかし反対地権者Nさんのお子さんが重度の自閉症で苦しんでおられ、そのためにも御両親が障害者・障害児のサポートセンターを自力で作るための火葬場建設反対であるのであれば、私たち(自民無所属クラブ)はNさんの意思を無視してまで、そこに火葬場建設を推進しません」

そして吉敷市議は、凜とした回答を本紙に提示した。

「なぜならば私も一時期、病気で車椅子の世話になった経験があり、障害者の方々の苦しみはよく理解できるからです。Nさんの反対理由を知った私たちは、火葬場建設推進の立場から下ります」

市民代表者である市議会議員が、「利便性」という言葉に安易に流されず、血の通った知性を示す姿を、本紙もまたすがすがしい気持ちで確認することができた。■